

2009年度
(平成21年度)

事業報告書



社団法人日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
TEL:03-5424-1121(代) FAX:03-5424-1126
<http://www.unesco.jp> nfuaj@unesco.or.jp

目次

| | | |
|-----|---------------|----|
| I | 2009年度事業報告 | 1 |
| | 1 「平和の文化」実践活動 | 2 |
| | 2 ユネスコ世界寺子屋運動 | 8 |
| | 3 世界遺産・地域遺産活動 | 10 |
| | 4 事業資金の拡大・充実 | 11 |
| II | 組織 | 15 |
| III | 会議 | 20 |

I 2009 年度事業報告

1. 「平和の文化」実践活動

「つなげよう平和の心」を合言葉に「民間ユネスコ運動の日」、「平和の鐘(かね・おと)を鳴らす運動」等、全国統一運動を継続、発展させた。全国大会、ブロック研究会、ユネスコ・ユースセミナー等、会員の研修機会を最大限活用し、ユネスコの理念や持続発展教育、ユネスコ・スクールの普及などに努めた。また、各地ユネスコ協会の活動を支援し、ユネスコ協会相互及び関係諸団体との交流を促進した。

アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)の会長に、松田昌士・日本ユネスコ協会連盟会長が選出され、今後アジアのユネスコ運動との連携を一段と強化する。

2. ユネスコ世界寺子屋運動

2009年、「ユネスコ世界寺子屋運動」は20周年の記念すべき年を迎え、多くの関連事業を実施した。20周年記念DVD『寺子屋がくれた未来』制作、日本国内において当協会連盟が主催した初の「国際識字デーイベント」(9月7日・8日)、「第65回日本ユネスコ運動全国大会 in 横浜」記念シンポジウム(11月8日)における基調講演とパネルディスカッション、感謝状贈呈式、そして1月30日、31日に実施した「ユネスコ世界寺子屋運動検討会議」。また現在の支援先関係者を日本招聘する「寺子屋キャラバン」では全国各地を訪れて報告会を開催した。また、2009年度のさまざまなプログラム内容を含めた「ユネスコ世界寺子屋運動20年の歩み(仮称)」の編集作業を行った。検討会議内容等を経て大きな方向性が3月5日の理事会で了承され、今後は具体的な計画を練り実施していく。

海外活動については、これまでの支援に関する評価について検討し、情報収集と調査準備を行うと同時に、現地事務所を構えるアフガニスタン、カンボジアのほか、ネパール、インド、ラオスでのノンフォーマル教育支援事業を充実させた。また、政府開発援助ユネスコ活動費補助金(以下「ODA補助金」という。)の支援により、世界寺子屋運動並びに世界遺産活動プロジェクトの現地パートナー(実務担当者)の日本研修を世界寺子屋運動20周年検討会議の時期に併せて実施した。

「一杯のスプーン」によるアフガニスタン、ネパール等への無料診療所への医薬品・食糧支援を行った。

3. 世界遺産・地域遺産活動

顕著で普遍的な価値をもつ世界遺産についての周知を図ると共に、アジアの世界遺産の保護・保全を目的として、フィリピン、カンボジア等で協力事業を実施した。また、遺産保護活動を通じた相互理解の促進を図った。またこれらの活動の進捗を伝える報告会等も開催した。身近な文化や自然を守る意識を高めるための活動として青森県での植樹活動を実施した。日本宝くじ協会の助成を得て「世界遺産年報」の発刊、世界遺産パネルの作成やホームページなどの一般への情報提供を行った。

さらに地域遺産活動の一環として、「未来遺産運動」を始動した。地域の宝物を地域に生活する人自らが見出し、守り育て、社会に活かすことで、日本の活力と誇りを創造していく。

4. 事業資金の拡大・充実

事業資金拡大の方策として、月1・いいことプログラムを強化。新たなパンフレットも作成し、募金拡大を目指した。企業とのタイアップは、大型のものとして、引き続き、三菱UFJフィナンシャル・グループとの「守ろう地球のたからもの事業」を企画・実施したほか、中小規模のもの約10事業のタイアップが成立した。

1. 「平和の文化」実践活動

(1) 普及実践活動

① 第 65 回日本ユネスコ運動全国大会 in 横浜（ユネスコ世界寺子屋運動 20 周年記念事業）

期間 2009 年 11 月 7 日～8 日

場所 大さん橋ホール

主催 日本ユネスコ協会連盟、神奈川県ユネスコ連絡協議会、横浜ユネスコ協会

共催 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会

後援 外務省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国際連合広報センター、横浜市、読売新聞東京本社

全国のユネスコ会員が集い、交流し、民間ユネスコ運動への研鑽を積むために毎年実施。今年度はユネスコ世界寺子屋運動 20 周年記念事業として実施。今大会のテーマは、「共に生きることを学ぶ～多文化との、自然との『共生』を問い直す～」。開港 150 周年を迎えた国際都市横浜で、基調講演やシンポジウム、青年会員企画プログラムを通して、平和で持続可能な地球社会を築くための多文化共生について考察した。また、「共に生きることを学ぶ」身近な国際協力として相互理解と多文化共生を推進してきたユネスコ世界寺子屋運動の 20 年間の実践と成果を振り返るシンポジウムや、協力団体への感謝状の贈呈式を行った。

② 「民間ユネスコ運動の日」

日本発祥のユネスコ運動をアピールするため、「民間ユネスコ運動の日」（7 月 19 日）を中心に、2009 年 7 月 18～20 日を全国一斉活動日、7 月 1 日～8 月 30 日を民間ユネスコ運動・夏のキャンペーン期間とし、「子どもたちの未来のために、今できることから」をテーマに、全国 50 箇所以上のユネスコ協会がさまざまな活動を展開した。

③ 「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう！」キャンペーン

「平和の文化国際年（2000 年）」、「世界の子どもたちのための平和の文化と非暴力の国際 10 年（2001～2010 年）」の象徴的事業として 2009 年 8 月 15 日を中心に実施。全国各地の寺院・教会の鐘をならし、子どもたちが平和について改めて考えるきっかけを作った。

④ 「平和の鳥 de 募金」

青年を中心とする平和運動の広がりをもつこと、また世代をまたぐユネスコ活動のきっかけとなることを目指し、全国各地で募金活動を実施した。「平和の鳥 de 募金活動」はユース・セミナーにてユネスコ協会青年部が発案した募金活動であり、2009 年は渋谷区恵比寿を中心に、各地のユネスコ協会青年が、世代を超えて、国際協力の必要性の普及・広報、支援のための活動を促進する機会となった。

⑤ ブロック別ユネスコ活動研究会

民間ユネスコ活動振興のため、ユネスコ協会の会員を対象とした研究会を以下の通り実施した。また、世界寺子屋運動 20 周年記念事業の一環として、協力ユネスコ協会に感謝状を贈呈した。

| | | |
|-------------------|-----------|----------------|
| 中部西ブロック・ユネスコ活動研究会 | (岐阜県岐阜市) | 2009年7月4～5日 |
| 東北ブロック・ユネスコ活動研究会 | (山形県酒田市) | 2009年7月25～26日 |
| 近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 | (京都府京都市) | 2009年8月22～23日 |
| 中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 | (神奈川県横浜市) | 2009年8月29～30日 |
| 四国ブロック・ユネスコ活動研究会 | (愛媛県新居浜市) | 2009年9月26～27日 |
| 関東ブロック・ユネスコ活動研究会 | (栃木県足利市) | 2009年10月3～4日 |
| 北海道ブロック・ユネスコ活動研究会 | (北海道小樽市) | 2009年10月10～11日 |
| 中国ブロック・ユネスコ活動研究会 | (岡山県岡山市) | 2009年11月14～15日 |
| 九州ブロック・ユネスコ活動研究会 | (沖縄県那覇市) | 2009年11月28～29日 |

(2) 青少年育成活動

① ユネスコ・ユースセミナー

2009年11月21～23日、大阪市立青少年文化創造ステーションにおいて、ユネスコ協会の青年約80名が参加。テーマは「Oh! さかさに見てみたら～私が変わると地域も変わる～」。「さかさの視点」で自分たちの活動をもう一度見直し、今後どのように取り組んでいくか、3日間をとおして学んだ。

② 「守ろう地球のたからもの」(通年)

「国連・持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)」に基づき、全国の児童・生徒を対象に、三菱UFJフィナンシャル・グループ及び三菱UFJ環境財団の協力のもと以下の事業を行った。

- A) 環境絵本「守ろう地球のたからもの サクラソウのひみつ」(東京大学鷺谷いづみ教授) 監修、環境ジャーナリスト幸田シャーミン氏執筆)がWEB上で公開を開始した。
- B) 第34回「みどりの絵」コンクールを三菱UFJ環境財団との共催で実施した。25,219点の応募作品の中から、最優秀賞9作品、優秀賞36作品、入選388作品が選ばれた。また、受賞者とその家族を8月7～9日に青森県での自然体験教室に招待した。
- C) 環境教材『守ろう地球のたからもの～持続可能な社会をめざして～豊かな自然編』(国立大学法人宮城教育大学監修)をWEB上からダウンロードを開始した。
- D) 青森の白神山地周辺の国有林にて春に2回の植樹活動を実施し、2万本を植樹した。

③ UNESCO・青年交流信託基金スタディツアー

2009年5月9～10日に、カンボジアスタディツアー(2009年3月27日～4月5日)に参加したユネスコ協会推薦の高校生18名を対象に、事後研修会を実施した。

④ 第41回ユネスコ子どもキャンプ

主催 日本ユネスコ協会連盟、宮城県ユネスコ連絡協議会、白石ユネスコ協会
2009年8月1～4日、南蔵王青少年旅行村で小学4年生～中学3年生43名と青年スタッフ50名参加のもとで実施。集団生活を通じて自立と自然愛護の精神と国際理解と相互協力の大切さを学んだ。

⑤ 青年が参加する活動への助成

青年層が参加する地域ユネスコ協会主催事業へ草の根助成金などを通じて助成した。

⑥ ユネスコ・スクールの普及活動

A) 研修会

昨年度に引き続き、文部科学省の日本／ユネスコ・パートナーシップ事業の委託を受け、ユネスコ・スクールの普及を促進するために、教員を対象にした県単位のユネスコ・スクール研修会を当該県の県教育委員会およびユネスコ連絡協との共催で実施した。開催日程は以下の通り。また、本研修会にあわせて研修用テキストを作成し、配布した。

| | | | 参加者 |
|----------------|--------------------|--|------|
| 2009年10月27日(火) | ユネスコ・スクール研修会 in 富山 | | 150名 |
| 2009年10月30日(金) | ユネスコ・スクール研修会 in 札幌 | | 100名 |
| 2009年11月18日(水) | ユネスコ・スクール研修会 in 新潟 | | 180名 |
| 2009年12月5日(土) | ユネスコ・スクール研修会 in 斜里 | | 90名 |
| 2009年12月17日(木) | ユネスコ・スクール研修会 in 千葉 | | 100名 |
| 2010年2月1日(月) | ユネスコ・スクール研修会 in 大阪 | | 130名 |
| 2010年2月3日(水) | ユネスコ・スクール研修会 in 沖縄 | | 90名 |
| 2010年2月12日(金) | ユネスコ・スクール研修会 in 京都 | | 70名 |

また、ブロック研究会においても、ユネスコ・スクールの普及・促進をテーマに情報交換、経験交流をはかった。

B) 学校プロジェクト

日本ユネスコ協会連盟が主催する以下の3つのプロジェクトの振興を図るとともに、6月6～7日にはユネスコ・スクールや全国の学校への紹介を目的とした教員研修会を実施した。

ア) ユネスコ寺子屋プロジェクト

主 催：日本ユネスコ協会連盟

共 催：一般社団法人デジタル表現研究会 D-project

事業協力：株式会社紀伊國屋書店

小・中・高校学校の児童・生徒が「ユネスコ世界寺子屋運動」について学び、コンピューターを使用して、運動を支援するためのリーフレットを制作するプロジェクト。今年度より名称を「ユネスコ運動 D-project」から「ユネスコ寺子屋プロジェクト」に変更して実施し、39校が参加した。リーフレットコンテストの結果、2010年度の書きそんじハガキキャンペーン用リーフレットの素案として採用される「日本ユネスコ協会連盟賞」には神奈川県公文国際学園中等部の生徒による作品が選ばれた。

イ) 私のまちのたからものコンテスト

主 催：日本ユネスコ協会連盟

共 催：一般社団法人デジタル表現研究会 D-project

事業協力：あいおい損害保険株式会社

未来遺産運動の基幹事業の1つとして今年度より実施。小・中・高等学校を対象に、「私のまちのたからもの」をテーマに、自分たちで撮ったデジタル写真に文字やナレーション、音楽を組み合わせた地域を紹介する1分30秒間のスライドショーを募集した。審査の結果、日本ユネスコ協会連盟賞、D-project賞、あいおい損害保険株式会社賞の3賞を決定した。

ウ) ESD 教材「守ろう地球のたからもの」の普及と活用

ユネスコ・スクール研修会に参加した小学校教員へ配布した。また教員研修会において教材を活用したワークショップを実施した。

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

① ユネスコ協会設立の勧誘と支援（通年）

新たに以下のユネスコ協会が設立された。

| | |
|-------------------|---------------------------------|
| 浄法寺ユネスコ協会(岩手県) | 第 461 回理事会 (2009 年 5 月 9 日) 承認 |
| 千代田ユネスコ協会(東京都) | 第 464 回理事会 (2009 年 9 月 19 日) 承認 |
| としまユネスコ協会(東京都) | 第 465 回理事会 (2009 年 11 月 7 日) 承認 |
| スプリングユネスコクラブ(東京都) | 第 467 回理事会 (2010 年 3 月 5 日) 承認 |

② ユネスコ地域草の根活動振興助成（通年）

地域に根付いたユネスコ協会を目指して、地域の社会貢献団体及びユネスコ協会の諸活動に対する助成。NTT グループのご協力により、第 1 期募集で 16 ユ協 19 件、第 2 期募集で 21 ユ協 22 件の助成を決定した。

③ ユネスコ運動推進員研修

研修期間：2009 年 8 月から 2010 年 9 月まで

11 ユネスコ協会の会員 13 名が参加。民間ユネスコ運動を市民に伝え広めるため人材の育成を目的に実施。国内研修は 2009 年 8 月 7～9 日および 2010 年 3 月 20～22 日に、海外研修（カンボジア）は 9 月 19～24 日に実施した。研修修了後は、所属ユネスコ協会を基盤に地域や学校で活躍する。なお 11 月の日本ユネスコ運動全国大会 in 横浜では第 2 期生のユネスコ運動推進員認定及び、第 1 期・2 期生合同によるポスターセッションを行った。

④ 都道府県ユネスコ連絡協議会、ユネスコ協会、新設ユネスコ協会への活動助成

- A) 地域の民間ユネスコ運動振興のため、講師・指導者を派遣、斡旋した。
- B) 「構成団体会員に関する規程」に基づき、都道府県内単位ユネスコ協会の活動振興のために各連絡協議会に助成金を交付した。
- C) 新設ユネスコ協会にユネスコ旗、新個人会員には会員バッジ等を贈呈した。
- D) ユネスコ協会活動を行う全国の青年(高校生、大学生を含む)を支援した。

⑤ 公益法人制度改革に伴う認可申請の準備作業

公益法人改革関連法案に基づき、公益社団法人の認定申請のため、定款及び諸規程の変更および財務資料等作成の作業を進めた。

(4) 海外との連携

① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (AFUCA) の活動の振興 (通年)

- A) AFUCA 会合(2009年8月、中国・蓬萊で開催)に日ユ協連理事長および職員を派遣した。
- B) AFUCA 事務局として域内ユネスコ協会・クラブ活動の振興に協力した。
- C) 韓国ユネスコ運動全国大会に日ユ協連代表者を派遣した。

② 世界ユネスコ協会クラブ連盟 (WFUCA) への協力 (通年)

世界連盟執行委員会(2009年8月、エジプトア・アレキサンドリアで開催)に日ユ協連代表者を派遣した。

③ 三菱アジア子供絵日記フェスタの共催 (通年)

主催：三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟、日本ユネスコ協会連盟
国際識字年(1990年)を記念し、1990年から相互の文化や生活に触れ、理解を深めることを目的に開催。第9回フェスタ(2008年～2009年)では、アジア24の国・地域の子どもたちから65,101作品を応募があった。2009年7月に予定されていたベトナム社会主義共和国・ハノイでの授賞式は、新型インフルエンザの流行により中止となった。

④ UNESCOとの連携

- A) 民間ユネスコ運動の振興と促進のため、UNESCOと緊密に情報を交換し人的交流を行った。
- B) 東アジア子ども芸術祭
UNESCOが主催する東アジア子ども芸術祭イン奈良(2009年8月6～8日)に、スペシャルアドバイザーの栗原小巻氏、及び日ユ協連理事長および職員を派遣した。
- C) 途上国大学・UNESCO講座事業
日本企業の寄付を得て発展途上国の大学に講座を開設し、途上国における学生の技術研究の向上に寄与した。UNESCO共催。
- D) UNESCO芸術賞基金の管理・運営
昨年度まで世界の若い芸術家の育成を目的としたUNESCO芸術賞の管理運営を行ってきたが、UNESCO本部からの芸術賞基金使途変更の要望があった。現在新しい枠組みについて協議中である。

(5) 普及広報活動

③ 機関誌「ユネスコ」の発行（奇数月1日、年間6回発行）

民間ユネスコ運動の普及広報のため機関誌「ユネスコ」を以下の通り発行した。

機関誌「ユネスコ2009年5月号 vol.1121」2009年5月1日発行

機関誌「ユネスコ2009年7月号 vol.1122」2009年7月1日発行

機関誌「ユネスコ2009年9月号 vol.1123」2009年9月1日発行

機関誌「ユネスコ2009年11月号 vol.1124」2009年11月1日発行

機関誌「ユネスコ2010年1月号 vol.1125」2010年1月1日発行

機関誌「ユネスコ2010年3月号 vol.1126」2010年3月1日発行

④ 日ユ協連紹介パンフレット（24頁パンフ）の改定、配布等

日ユ協連のユネスコ協会のリスト等を含め、最新情報に沿って一部改定し発行した。

⑤ 国際協力レポート

「国際協力レポート」の名称を「みなさまからの募金による活動レポート」に変更し、「ユネスコ世界寺子屋運動」、「世界遺産活動」、「一杯のスプーン」、「未来への贈り物募金」を通じた協力内容を国ごとにまとめたフルカラーの報告書（全23ページ）を2009年6月の総会に合わせて発行し、協力者に配布・送付した。

⑥ 広報ツールの強化

- A) 日ユ協連ホームページの内容充実をはかった。
- B) 新聞雑誌、広告、動画配信などを積極的に活用し民間ユネスコ運動を広報した。
- C) 民間ユネスコ運動の普及広報のためユネスコ情報マガジンを通巻118号～132号まで計14回発行した。
- D) 民間ユネスコ運動の広報と啓発のためにビデオやパネルの貸出。
当協会連盟の活動を紹介するパンフレットをはじめ、ポスター、パネル、ビデオ等を必要に応じて制作し、希望する全国の学校や団体等に貸出した。

⑦ 日ユ協連との共催・後援事業に対する申入れへの協力

当協会連盟の運動方針に鑑み、共催・後援事業に相応しいと考えられる企業の社会貢献的
事業などに協力した。

⑧ 第80回都市対抗野球大会で日本ユネスコ協会連盟会長賞を授与

2009年9月1日に東京ドームで行われた第80回都市対抗野球大会で優勝したホンダ（埼玉県狭山市代表）に対して日本ユネスコ協会連盟会長賞を贈呈した。

2. ユネスコ世界寺子屋運動

(1) 世界寺子屋支援活動 (通年)

①カンボジア (アンコール寺子屋プロジェクト)

日ユ協連カンボジア事務所を拠点とし、教育省などと連携をとりながら、子ども、成人を対象とした識字教育、技術訓練及び収入向上プログラムを実施している。既存の5軒の寺子屋に加えて新たに2地域ポック郡ルエルコミュニティとチクライン郡コックトロクナンコミュニティドンソック村における寺子屋運営委員会の設立、寺子屋運営基礎講習会を実施し、ルエルコミュニティにおいては寺子屋建設も始まった。教育省と共同で州内20地域で識字クラスの運営支援を継続して実施した。就学前教育を通して、教育の重要性を早い段階で親が理解し、また幼児が小学校での学習のための土台を構築し、中途退学を防ぐことを目的に既存の5軒の寺子屋では新たに5歳児を対象に就学前児童のクラスを開始した。

②アフガニスタン (アフガニスタン寺子屋プロジェクト)

日ユ協連カブール事務所を拠点とし、アフガニスタン教育省識字局などの協力を得て子ども、成人を対象とした寺子屋活動を実施した。

現在すべての寺子屋が自立運営を目指し、洋裁クラスや刺しゅうクラスなどの収入向上プログラムに力を入れている。アフガニスタンの伝統技術である絨毯織り、羊皮を使った皮革製品などは、地域のマーケットでも売り出されるまでになった。民家を使った寺子屋教室で学ぶ女子と女性も増えており、2009年度は17の民家で計322人の学習者が学ぶ機会を得た。

③ネパール (ルンビニ寺子屋プロジェクト)

建設中だったラバニ、パカディ、バグワンプール、エカラの4軒の寺子屋が2009年度に完成し、計画していた12軒すべての寺子屋がルンビニにそろった。エカラとラバニでは日本の募金者が現地を訪問した際に開所式が行われた。

寺子屋では、学校が遠く、時間の限られている子どものために、5年間の初等教育(小学校相当)を3年間に凝縮したFSP(フレキシブル・スクーリング・プログラム)のクラスを開始。現在21クラスで540人が学んでいる。また、幼稚園に相当する就学前教育も寺子屋で行われ、小さな子どもたちが簡単な言葉や計算などを学んでいる。寺子屋では17クラスで403人が学ぶ。また、264人が野菜栽培、土壌改良、ろうそく作りなどの収入向上トレーニングを受けた。

④インド (ゴカック寺子屋プロジェクト)

2010年7月で終了する5ヵ年事業の最終年として既存寺子屋の自立運営を目指すための研修を中心に実施した。カルナータカ州政府への団体申請手続きを実施した団体の団体更新手続きや、寺子屋運営委員による寺子屋会員獲得や村での募金活動など、自立に向けて独自資金の獲得を懸命に行っている。さらに、日本の企業の支援によって、2軒の寺子屋が完成間近で、1軒は建設が始まる予定になっている。

⑤ラオス（ルアンパバン寺子屋プロジェクト）

2009年度は、完成したそれぞれの寺子屋で、本格的に寺子屋プログラムが開始された。ポンサイ郡タポ村とファイノ村では、女性たちが綿織物グループ（20人）を形成。講師を50～60代の女性たちが務め、先祖から受け継がれてきた織物の技術を再復興した。

また、収入向上の一環として、すべての村で養牛、養豚、養鶏、養ヤギなど合計20のグループへの支援が行われた。ライスバンク（村の米の共同貯蓄）から米を借りなければ日々の生活さえも困難な村人たちに、畜産という副業ができ、暮らしは少しずつ改善され始めている。寺子屋にはそれぞれ図書室を設置し、子ども向けの読本のほか、町から届く中古の新聞や雑誌を置いて情報提供を行っている。

⑥ 世界寺子屋運動研修活動

ODA補助金により、世界寺子屋運動検討会議にあわせ、アフガニスタン、カンボジア、ラオス、インド、ネパール、フィリピンから世界寺子屋運動および世界遺産のパートナーが来日し、2010年1月29日～2月8日の間、東京で「寺子屋の持続発展性」についての研修を行った。各国の寺子屋の今後の計画や計画達成を測る指標を考案し、最終的に行動計画にまとめた。

⑦ NHK「日本賞・日本ユネスコ協会連盟賞」の授与

2009年10月28日に開催された日本賞授与式（NHK主催）で、途上国の識字教育を促進する優れた番組企画に選ばれたエチオピア連邦民主共和国のウィズ・キッズ・ワークショップ企画「ツェハイ 文字を学ぶ」が選ばれ、「日本ユネスコ協会連盟賞」を授与した。

(2) 世界寺子屋運動の広報及び募金促進活動

① 書きそんじハガキ回収キャンペーン（2009年11月～2010年3月）

年末年始を中心に各地ユネスコ協会と共催で書きそんじハガキの回収キャンペーンを実施。広報ツールをユネスコ協会や協力者の要望に応じて配布し、121のユネスコ協会がキャンペーンに参加した。さらに、静岡放送や相模原市なども新たに書きそんじハガキ回収に協力した。

(3) 世界寺子屋運動20周年記念事業（通年）

世界寺子屋運動20周年を迎えるにあたり、全国のユネスコ協会にアンケート調査を実施し、世界寺子屋運動20周年委員会の、各委員の助言と全面的な協力により、以下の事業を実施した。

① 20周年記念DVD『寺子屋がくれた未来』の制作

元学習者のその後に焦点をあてたDVDを制作し、寺子屋運動協力団体等に無料配付した。

② 「国際識字デーイベント」（2009年9月7日・8日 東京・電通ホール）

電通グループ4社の全面的な協力のもと、国内で初めて識字デーイベントとして実施。7日のプレスデーではフリーアナウンサーの久保純子氏に世界寺子屋運動広報特使「世界寺子屋運動 まなびゲーター」にご就任いただき、プレス発表を行うと同時に、8日には、イ

ンドとカンボジアからの元学習者や現場責任者等による報告を行い、協力企業やスタディツアー参加青年を招いたパネルディスカッションを実施した。一般市民を含む 150 人が参加した。

③ 「第 65 回日本ユネスコ運動全国大会 in 横浜」 記念シンポジウム

(2009 年 11 月 8 日 横浜・大榎橋ホール)

アフガニスタンの元学習者で、イスタリフ村寺子屋運営委員のモハマド・ナビ氏による講演の後、大島賢三 JICA 副理事長、久保純子世界寺子屋運動まなびゲーター、尾花珠樹元日ユ協連事務局長、千葉泉弘世界寺子屋運動 20 周年委員会委員長による世界寺子屋運動が果たした役割と今後についてのパネルディスカッションが行われた。また、20 周年を記念して松田昌士会長から 13 の企業・団体に対して感謝状が贈呈された。

④ 「ユネスコ世界寺子屋運動検討会議」 (2010 年 1 月 30 日東京・電通ホール、1 月 31 日東京・文京学院大学)

初日は、関係者や一般を対象に 200 人を越える参加者のもと UNESCO 生涯学習研究所のアダマ・ウアン所長を招いて基調講演が行われた。千葉泉弘委員長による世界寺子屋運動の展望についての講演に続き、現在の支援先 5 カ国 (アフガニスタン、インド、カンボジア、ネパール、ラオス) の代表者による課題等についての発表があり、最後に久保純子まなびゲーターより、カンボジア訪問時の経験を踏まえた発表が行われた。

翌日の 1 月 31 日は、ユネスコ協会等を含め、関係団体の希望者のみを対象に、今後の世界寺子屋運動の国際支援の方向性や国内活動について、その分野の専門家やこれまで寺子屋運動に取り組んできたユネスコ協会関係者、教員などによる会議を行った。

⑤ 「寺子屋キャラバン」

現在の支援先 5 カ国から元学習者や寺子屋運営委員などを含めた関係者を招聘し、全国各地で報告会を実施した。

⑥ 「ユネスコ世界寺子屋運動 20 年の歩み」

20 周年を記念し、特に後半の 10 年に焦点をあてた、世界寺子屋運動の歩みについて編集作業を行った。

(4) 「一杯のスプーン」 支援活動 (通年)

発展途上国の貧困や飢餓、教育などの課題に、現地と日本の市民とが「共に協力して」取り組む事業。アフガニスタンのカブール市内 JIFF 病院への医療支援、及びネパールのルンビニ寺子屋プロジェクトの対象地域で巡回医療支援・栄養補助食品配布を実施した。

3. 世界遺産・地域遺産活動

(1) 世界遺産・地域遺産支援活動（通年）

① フィリピン・（イフガオの棚田文化継承プロジェクト）

危機遺産に登録されたイフガオ州の世界遺産を守るため、第1フェーズ、第2フェーズでは棚田の伝統的な技術を保持しているムンバキと呼ばれる知識継承者が持つ無形の知識と技術をデータベースに保存し、学校での授業を通じて次世代に継承する枠組みを構築した。第3フェーズでは、カウンターパートがこれまでのNGOから州政府に移行し、公教育におけるカリキュラム作りを中心に内容構築を行った。小学校では、3年生から6年生用の理科の教材にイフガオの文化を伝える文言が導入され、イフガオ州内4校で試行クラスが行われた。また地元のイフガオ国立大学では、農業や森林管理、伝統的家屋作り、儀式などをテーマとする教員養成用のカリキュラムがデザイン化され、70人以上の学生がイフガオ文化を伝える学科を受講した。

② カンボジア（アンコール・文化教育プロジェクト）

カンボジアのアプサラ機構（アンコール地域遺跡整備機構）、教育省と共催で子どもたちにクメール文化を伝えるため、ぬり絵を中心とした教材及び教員用の指導マニュアルを制作した。今後、シエムリアップ州内25の小学校の3年生～5年生を対象に配付すると共に、教員訓練や子どもたちを対象としたスタディツアーの実施を計画している。

③ アフガニスタン（バーミヤン遺跡文化プロジェクト）

アフガニスタンの治安状況の悪化に伴い、実施を見送った。

④ 植樹プロジェクト（青森県岩木山）

（株）レインボー・ジャパンの協力を得て、2007年から2009年の間に白神山系岩木山へ5000本の植樹を行った。この事業は「自然の豊かな森を未来の子どもたちに引き継ぎ、地球規模の環境問題と向き合っていくこと」を目的に実施しているもので、これらの活動を通じ、地域の自然を大切にすることを育むと同時に、環境への意識啓発を行い、持続発展教育（ESD）に寄与した。

⑤ 世界遺産認定証のレプリカ制作

日本からUNESCO世界遺産センターに申請していた「ル・コルビュジエの建築と都市計画」は、第33回世界遺産委員会（2009年6月、スペイン・セビリア於）にて登録延期の評価を受けたため、世界遺産認定書のレプリカ制作は行わなかった。

(2) 世界遺産・地域遺産活動の広報及び募金の促進

① 世界遺産年報の発行・配布

財団法人日本宝くじ協会の助成を得て、世界遺産条約の理念の普及、世界遺産に関する情報の提供を目的とした「世界遺産年報2010 No.15」を2009年12月に発行し、国公立図書館、大学附属図書館、教育委員会等に贈呈した。

今号では、「世界遺産とともに歩んで 在任10年の成果と今後の課題」と題し、松浦晃一郎 UNESCO前事務局長と西村幸夫当協会連盟理事・東京大学教授の特別対談の特集は

か、「古都奈良の文化財」や「ガラパゴス諸島」の現状、「コルビュジエ」の登録延期の背景など、多岐にわたる情報をご紹介している。

② 地域遺産活動（通年）

国内の世界遺産登録地にあるユネスコ協会が、地元の世界遺産の保護に協力するための情報収集を行った。

③ 広報及び募金促進の活動（通年）

世界遺産・地域遺産活動の内容を紹介する世界遺産パネル、パンフレット、DVD など広報ツールを制作し、ユネスコ協会及び広く一般の広報及び募金に役立てた。

④ 「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展への協力（通年）

次世代を担う子どもたちが有形・無形の身近な自然や文化に目を向け、それらを大切に思う気持ちを育むことを目的に 1998 年より開催している。本絵画展は、2008 年度をもって終了。その後、各地域で継続されるユネスコ協会へ、「日本ユネスコ協会連盟会長賞」を作成し本年は 53 協会へ送付した。

⑤ 未来遺産運動（通年）

地域の文化・自然遺産を未来へ伝えるために、①地域の文化・自然遺産を守る市民活動を応援する「プロジェクト未来遺産」、②次世代継承者を育成する「私のまちのたからものコンテスト」を実施した。また 2010 年 3 月 22 日に、第 1 回未来遺産運動記念式典を開催した。なお、特別協力企業として東日本旅客鉄道株式会社・レクサス・日清紡ホールディングス株式会社、また事業協力としてあいおい損害保険株式会社より協力を得た。

A) 「プロジェクト未来遺産」の登録

公 募：2009 年 4 月～8 月末 全国 39 都府県より 50 プロジェクトの応募受付。

＊プロジェクト未来遺産選考のために西村幸夫東京大学教授を委員長とする未来遺産委員会を設置

事前選考：未来遺産委員会の各分野の専門家によるワーキング・グループ結成、評価項目や選考方法の決定、書類選考実施

調 査：書類選考後、10 月～11 月初旬、ワーキング・グループメンバーと適宜、現地調査、未来遺産委員会提出用の調査報告書の作成

委 員 会：未来遺産委員会を開催し、2009 年度「プロジェクト未来遺産」10 団体の選考、登録決定

「プロジェクト未来遺産 2009」※プロジェクト名（団体名）

1. 久保川イーハトーブ世界自然再生事業（久保川イーハトーブ自然再生協議会）
2. 神楽坂をますます粹に～「粹益（いきまし）」プロジェクト（神楽坂まちづくりの会）
3. いきもの不思議の国・中池見湿地（NPO 法人 ウェットランド中池見）
4. 葵プロジェクト（葵プロジェクト）

5. ならまちわらべうたフェスタ（財団法人 ならまち振興財団）
6. 孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト（特定非営利活動法人 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子）
7. 日本の記憶が息づく島OKIを守り伝えるプロジェクト（風待ち海道倶楽部）
8. このままの鞆がいい！住民の手による歴史的港湾都市「鞆の浦」の歴史・文化・自然の継承と再生（特定非営利活動法人 鞆まちづくり工房）
9. 八女福島 空き町家と伝統工法の再生による町並み文化の継承（NPO法人八女町家再生応援団・NPO法人八女町並みデザイン研究会）
10. 現代版組踊「肝高の阿麻和利」と「キムタカのマチづくり」（あまわり浪漫の会）

B) 「私のまちのたからものコンテスト」

子どもたちが地域をみつめ、「世界の人たちに伝えたい“私のまちのたからもの”」をテーマに自分たちで撮ったデジタル写真に文字やナレーション、音楽を組み合わせたスライドショーを募集、コンテストを実施した。なお優秀校は3月22日に表彰を行った。

「私のまちのたからものコンテスト受賞校」

1. 日本ユネスコ協会連盟賞
岡山県立矢掛高等学校 3年生
石井祐充、平井優里、福山 奨（※3名での共同作品）
作品名：『白石島に受け継がれてきたもの』
2. D-project 賞
鳥取市立西郷小学校 6年生
奥谷悠那、田中志穂、長谷有紀（※3名での共同作品）
作品名：『白磁にこめた思い』
3. あいおい損害保険株式会社賞
奈良市立椿井小学校 6年生
大西純平、中室千昭、吉田保菜美（※3名での共同作品）
作品名：『奈良の墨を紹介します』

C) 未来遺産運動記念式典

日 程：2010年3月22日（月・祝）12：00～17：00

主 催：日本ユネスコ協会連盟

特別協力：東日本旅客鉄道株式会社・レクサス・日清紡ホールディングス株式会社
他

会 場：東京国立博物館・平成館

内 容：2009年度「プロジェクト未来遺産」登録を記念し、各団体のプレゼンテーション実施、認定証の授与および特別応援金の審査、贈呈を行った。
またあわせて「学校プロジェクト」優秀校の発表を行った。

D) 「未来遺産募金」

従来の募金システム（月1いいことプログラム等）を中心に一般からの募金を募った。

また、情報ダイヤル・じぶん銀行など新しいコンテンツを企画・実施した。

4. 事業資金の拡大・充実

民間ユネスコ運動の発展を期して、月1・いいことプログラムを強化施策とし、募金の呼びかけを行った。そのほか、企業とのタイアップ事業に力を入れた。

(1) 財務の強化

募金総額の増加

名称変更した「月1・いいことプログラム」専用のパンフレットを作成し、書きそんじハガキ御礼状への同封や、タイアップ企業の協力による店頭での設置など、広く募金を呼びかけた。

(2) 企業とのタイアップ（協力）事業の推進

企業とのタイアップは、社会貢献事業の実施と財源の確保を同時に実現できる有力な方式である。大型のタイアップとしては、引き続き三菱東京UFJフィナンシャル・グループとの「守ろう地球のたからもの事業」、㈱クラウンクリエイティブとの「世界遺産 SMILE プロジェクト」などの企画・実施がなされた。この他、中小規模のもの約 10 事業（レクサス・東レ・京王百貨店・カルピス・サマンサタバサ・緑の goo・猿人・東京国際映画祭など）のタイアップが成立した。

Ⅱ 組 織

1. 理事（23）（五十音順）

| | | | |
|-------|------------------------------------|-----|------|
| 会 長 | 松田 昌士（東日本旅客鉄道㈱相談役） | 非常勤 | <維持> |
| 副会長 | 加藤 玲子（特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会会長） | 非常勤 | <会委> |
| | 石井 清（柏ユネスコ協会会長） | 非常勤 | <構成> |
| 理 事 長 | 野口 昇（文京学院大学副学長・教授） | 非常勤 | <個人> |
| 理 事 | 秋田 実（三菱商事㈱総務部環境・CSR推進室長） | 非常勤 | <維持> |
| | 安藤 厚（岩手県ユネスコ協会会長） | 非常勤 | <構成> |
| | 今井琉璃男（松山ユネスコ協会会長） | 非常勤 | <構成> |
| | 内田 眞朗（日本ユネスコ協会連盟事務局長） | 常勤 | <個人> |
| | 久保田 穰（神奈川県ユネスコ連絡協議会会長） | 非常勤 | <構成> |
| | 桑原 昭二（姫路ユネスコ協会会長） | 非常勤 | <構成> |
| | 小出 寛治（NTTファイナンス㈱取締役相談役） | 非常勤 | <会委> |
| | 杉田 辰彦（熊本ユネスコ協会副会長） | 非常勤 | <構成> |
| | 田川 清（(医)幸医会理事長、名古屋ユネスコ協会会長） | 非常勤 | <構成> |
| | 千葉 晃弘（国際基督教大学教育研究所顧問） | 非常勤 | <個人> |
| | 西村 幸夫（東京大学教授） | 非常勤 | <個人> |
| | 二瓶 和敏（二瓶総合法律事務所、弁護士） | 非常勤 | <個人> |
| | 野田 智義（特定非営利活動法人アイ・エス・エル理事長） | 非常勤 | <会委> |
| | 林 美紀子（杉並ユネスコ協会顧問） | 非常勤 | <構成> |
| | 樋口 達夫（大塚ホールディングス㈱代表取締役社長兼CEO） | 非常勤 | <会委> |
| | 古川 綾子（山口ユネスコ協会会長） | 非常勤 | <構成> |
| | 盛 和春（㈱電通プロジェクト・プロデュース局シニア・プロデューサー） | 非常勤 | <維持> |
| | 山田 家正（北海道ユネスコ連絡協議会） | 非常勤 | <構成> |
| | 米田 伸次（帝塚山学院大学国際理解研究所顧問） | 非常勤 | <賛助> |

（注1）<構成>：構成団体会員代表、<賛助>：賛助団体会員代表、<個人>：個人会員代表、
<維持>：維持会員代表、<会委>：会長委嘱

2. 監事（3）

| | |
|---------------------------|-----|
| 大瀧 太市（朝日実業㈱元社長） | 非常勤 |
| 鈴木 幹夫（日本放送協会元理事） | 非常勤 |
| 松代 隆子（財団法人吉田秀雄記念事業財団常務理事） | 非常勤 |

3. 顧問（11）

| | | | | |
|------------|-------|-------|------|-------|
| 糟谷 勝一 | 児島 仁 | 曾我 貞子 | 堤 清二 | 中村 秀子 |
| 濱中昭一郎 | 福原 義春 | 松浦晃一郎 | 村井 了 | 村田 昌志 |
| E. H. Rose | | | | |

4. 評議員数

| 会員種別 | 2009年度末 | 定員 |
|--------|---------|-------------------------------|
| 構成団体会員 | 89 | 90以内 |
| 賛助団体会員 | 4 | 10以内 |
| | | (但し会員総数：23の「3分の1以内」のため実数は7以内) |
| 個人会員 | 30 | 40以内 |
| 維持会員 | 15 | 30以内 |
| 計 | 138 | 150以内 |

5. 会員数

| 会員種別 | 2008年度末 | 減 | 増 | 2009年度末 |
|-----------|---------|----|----|---------|
| 構成団体会員 | 270 | 1 | 4 | 273 |
| 賛助団体会員 | 19 | 3 | 0 | 16 |
| 個人・終身個人会員 | 332 | 34 | 14 | 312 |
| 維持会員 | 209 | 40 | 6 | 175 |
| 計 | 830 | 78 | 24 | 776 |

※ 休会会員を除く。

6. 会員の異動

構成団体会員

<入会>

| | |
|-------------------|----------------------|
| 浄法寺ユネスコ協会(岩手県) | 2009年5月9日第461回理事会承認 |
| 千代田ユネスコ協会(東京都) | 2009年9月19日第464回理事会承認 |
| としまユネスコ協会(東京都) | 2009年11月7日第465回理事会承認 |
| スプリングユネスコクラブ(東京都) | 2010年3月5日第467回理事会承認 |

<休会>

| | |
|---------------|---------------------|
| 西都ユネスコ協会(宮崎県) | 2009年5月9日第461回理事会承認 |
|---------------|---------------------|

維持会員

<入会>

| | |
|------------------------------------|----------------------|
| サニーサイドアップ株式会社、メリルリンチ日本証券株式会社 | 2009年9月19日第464回理事会承認 |
| MHD モエヘネシーディアジオ株式会社 | 2009年11月7日第465回理事会承認 |
| 有限会社データワールド | 2010年1月16日第466回理事会承認 |
| 株式会社総合設備コンサルタント、エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 | 2010年3月5日第467回理事会承認 |

<退会>

株式会社山陰合同銀行、三機工業株式会社、昭和航空株式会社、株式会社 JP ビジネスサービス、

セガサミーホールディングス株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、日光株式会社、ネッツトヨタ旭川株式会社、ネッツトヨタ苫小牧株式会社、ネッツトヨタ帯広株式会社、ネッツトヨタ函館株式会社、ネッツトヨタ北見株式会社、ネッツトヨタ釧路株式会社、ネッツトヨタ札幌株式会社、ビー・エヌ・ピー・パリバ証券会社、フジテック株式会社、ファナック株式会社、株式会社三井住友銀行目黒法人営業部、

2009年5月9日第461回理事会承認

FDK（旧富士電機化学）、恩村内科医院、株式会社オージービー、株式会社桐生タイムズ社、近畿日本ツーリスト株式会社、清水建設株式会社、有限会社新生堂、東京トヨタ自動車株式会社、日本興亜損害保険株式会社、株式会社富士通パーソナルズ、株式会社富士通栃木テン、大和生命保険株式会社、和興エンジニアリング株式会社

2009年9月19日第464回理事会承認

株式会社セーフティ、富士電機ホールディングス株式会社、みずほ証券株式会社

2009年11月7日第465回理事会承認

株式会社富士通ビジネスシステム、富士急トラベル株式会社、都築電気株式会社

2010年1月16日第466回理事会承認

大同生命保険株式会社、沖電気工業株式会社、安藤建設株式会社

2010年3月5日第467回理事会承認

終身個人会員

<入会>

田川 清

2009年5月9日第461回理事会承認

内田 眞朗

2010年1月16日第466回理事会承認

個人会員

<入会>

奥川 浩士、柳田 信之、高山 俊昭

2009年5月9日第461回理事会承認

長谷川 恵一、宮坂 義道、米田 謙三

2009年5月30日第462回理事会承認

盛 和春、荒木 陽子

2009年9月19日第464回理事会承認

堀川 一晃

2009年11月7日第465回理事会承認

芦田 順子

2010年1月16日第466回理事会承認

田淵 五十生、吉田 陽三

2010年3月5日第467回理事会承認

<退会>

井窪 末吉、種田 誠、立馬 歳郎、堀田 希一、松本 文雄、丸山 クニ子

2009年5月9日第461回理事会承認

竹内 世武

2009年5月30日第462回理事会承認

笹岡 太一、中川 寿賀子

2009年9月19日第464回理事会承認

平坂 晃子

2009年11月7日第465回理事会承認

嶋中 樹、金子 民雄、林 信夫、戸張 捷、岩崎 裕保、金子 晃典、本屋敷 錦吾、水井 百合子、菊池 三世子、大澤 明彦、中島 加代子、高橋 正夫、宗田 好史、國弘 正雄、

2010年1月16日第466回理事会承認

吉田 禎允

2010年3月5日第467回理事会承認

<物故>

| | |
|--------------------------|----------------------|
| 平賀 孝 | 2009年5月30日第462回理事会承認 |
| 内田 計手、恩村 恭平、小畑 高雄、近藤 いね子 | 2009年9月19日第464回理事会承認 |
| 上田 昌史、平山 郁夫 | 2010年1月16日第466回理事会承認 |

賛助団体会員

<退会>

| | |
|----------------|----------------------|
| 社団法人日本楽劇協会 | 2009年5月9日第461回理事会承認 |
| 社団法人日本YMCA同盟 | 2009年5月30日第462回理事会承認 |
| 国際音楽評議会日本国内委員会 | 2010年3月5日第467回理事会承認 |

7. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員(日本ユネスコ協会連盟関係) (2010年3月31日現在)

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 北海道 | 秋庭 一憲 (北海道ユネスコ連絡協議会事務局長) |
| 東北 | 引地瑠美子 (白石ユネスコ協会会長) |
| 関東 | 吉崎 晴子 (千葉県ユネスコ連絡協議会理事、市川市ユネスコ協会事務局長) |
| 中部東 | 森井 曠雄 (鎌倉ユネスコ協会理事) |
| 中部西 | 小竹三恵子 (ふくいユネスコ協会副会長) |
| 近畿 | 大音 裕子 (川西ユネスコ協会会長) |
| 中国 | 内藤 淳彦 (石見地区ユネスコ協会会長) |
| 四国 | 笹川 重幸 (香川県ユネスコ連絡協議会長、高松ユネスコ会長) |
| 九州 | 武藤 博丈 (長崎ユネスコ協会会長) |
| 全国的連合組織 | 栗原 小巻 (女優、日本ユネスコ協会連盟スペシャル・アドバイザー) |
| 全国的連合組織 | 西村 幸夫 (日本ユネスコ協会連盟理事、東京大学教授) |
| 全国的連合組織 | 野口 昇 (日本ユネスコ協会連盟理事長) |

Ⅲ 会 議

1. 総会

第60回通常総会

日 時 2009年5月30日(土) 14:30~16:55
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム (A会議室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 56名
維持会員 8名
個人会員 47名
賛助団体会員 3名
出席者計 114名
委任状 362通

- 議題
1. 議事録署名人の選任
 2. 理事、監事及び評議員の選出
 3. 2008年度事業報告書(案)
 4. 2008年度収支計算書及び財務諸表(案)
 5. 2009年度事業計画(案)
 6. 2009年度収支予算書(案)
 7. 定款及び諸規程の変更(案)
 - (1) 定款・諸規程のポイント
 - (2) 定款(新・旧)
 - (3) 定款(成案)
 - (4) 会員に関する規程(新・旧)
 - (5) 役員・評議員選任に関する規程(新・旧)
 - (6) 役員報酬規程(新・旧)
 8. 会員提出議案について
 9. その他

2. 評議員会

第18回評議員会

日 時 2009年5月9日(土) 13:15~15:30
場 所 大手町サンスカイルーム (A会議室)
東京都千代田区大手町2-6-1 朝日生命大手町ビル 27階
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 53名
維持会員 2名
個人会員 23名
賛助団体会員 3名
出席者計 81名

- 委任状 40 通
- 議 題 1. 第 17 回評議員会議事要録の承認
2. 2008 年度事業報告(案)及び 2008 年度決算(案)
3. 2009 年度事業計画(案)及び 2009 年度予算(案)
4. 定款及び諸規程の変更(案)
 定款(案)
 会員に関する規程(案)
 役員・評議員選任に関する規程(案)
 定款及び諸規程の変更のポイント
5. その他

第19回評議員会

- 日 時 2009 年 9 月 19 日 (土) 13 : 15 ~ 15 : 30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム (A 会議室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 56 名
 維持会員 3 名
 個人会員 17 名
 賛助団体会員 3 名
 出席者計 79 名
 委任状 34 通
- 議 題 1. 第 18 回評議員会議事要録の承認
2. 2009 年度上半期主要事業報告
3. 2010 年度事業計画(案)
4. その他

第20回評議員会

- 日 時 2010 年 1 月 16 日 (土) 13 : 15 ~ 15 : 30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム (A 会議室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 47 名
 維持会員 4 名
 個人会員 19 名
 賛助団体会員 2 名
 出席者計 72 名
 委任状 27 通
- 議 題 1. 第 19 回評議員会議事要録の承認
2. 2009 年 10 月から 12 月までの事業報告及び今後の主要事業
3. 未来遺産運動
 世界寺子屋運動 20 周年事業
4. その他

3. 理事会

第461回理事会

- 日 時 2009年5月9日（土）15：45～17：00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 16名
委任状 6通
議 題 I. 第 460 回理事会議事要録の承認
II. 協議事項
1. 会員の入退会
2. 2008 年度事業報告(案)及び2008 年度決算(案)
3. 2009 年度事業計画(案)及び2009 年度予算(案)
4. 定款及び諸規程の変更(案)
5. ユネスコ未来遺産運動
6. その他
III. 報告事項
1. 後援・共催事業
2. その他

第462回理事会

- 日 時 2009 年 5 月 30 日（土）13：15～14：00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 14名
委任状 8通
議 題 I. 第 461 回理事会議事要録の承認
II. 協議事項
1. 会員の入退会
2. 2008 年度事業報告(案)及び2008 年度予算(案)
3. 2009 年度事業計画(案)及び2009 年度予算(案)
4. 定款及び諸規程の変更(案)
5. 2009-2010 年度「役員、評議員選考委員会」
6. 会員提出議案
7. その他
III. 報告事項
1. 後援・共催事業
2. その他

第 463 回理事会

- 日 時 2009年5月30日（土）17：00～17：45
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）
議 長 会長 松田 昌士

出席者 14名

委任状 2通

議 題 I. 協議事項

1. 議事録署名人の選任
2. 会長の互選
3. 会長委嘱理事の選任
4. 副会長、理事長の互選
5. 定款変更時の代表理事・常務理事予定者の選任
6. 役員報酬
7. 委員会等の設置
8. スペシャルアドバイザーの委嘱
9. ユネスコ世界寺子屋運動広報特使
10. その他

第464回理事会

日 時 2009年9月19日（土）15：45-17：00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 19名

委任状 4通

議 題 I. 第462回理事会議事要録の承認
第463回理事会議事要録の報告

II. 協議事項

1. 会員の入退会
2. 委員会等の設置
3. 2009年度上半期主要事業報告
4. 2010年度事業計画(案)・予算(案)
5. その他
 - (1) 公益法人制度改革
 - (2) 特定公益増進法人

III. 報告事項

1. 後援・共催事業
2. その他

第465回理事会

日 時 2009年11月7日（土）10：00～11：30

場 所 神奈川県・ワークピア横浜（303室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 16名

委任状 8通

議 題 I. 第464回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会
2. 新定款に基づく会員種別と今後の対応
3. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 後援・共催事業について
2. 2009年度上半期収支計算書
3. 日本ユネスコ運動全国大会 in 横浜
4. その他

第466回理事会

日 時 2010年1月16日（土）15：45～16：35

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 18名

委任状 0通

議 題 I. 第465回理事会議事要録の承認

Ⅱ. 協議事項

1. 会員の入退会
2. 世界寺子屋運動の今後の進め方
3. ユネスコ活動助成金(旧：地域草の根活動振興助成)
4. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 後援・共催事業
2. 未来遺産運動
3. その他

第467回理事会

日 時 2010年3月5日（金）15：00～17：30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 16名

委任状 3通

議 題 I. 第466回理事会議事要録の承認

Ⅱ. 協議事項

1. 会長委嘱理事の選任
2. 会員の入退会
3. 2010年度事業計画書及び収支予算書
4. 世界寺子屋運動の今後の方針
5. 公益社団法人申請に伴う事前の準備
6. 「就業規則」及び「賃金規程」の改正
7. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 後援・共催事業
2. 未来遺産運動(3月22日登録式典、及び第2回の募集)
3. ユネスコ・スクール研修会の進捗状況
4. その他

4. 特別委員会 (役職は就任当時。委員は五十音順)

① 公益社団法人移行特別委員会

| | | | |
|----------------|---------------------------------|------------------------|-----------|
| 委嘱事項 | 定款及び諸規程の変更、公益社団法人移行にともなう関連事項の審議 | | |
| 委員長 | 松田 昌士 | (日ユ協連会長、東日本旅客鉄道(株)相談役) | |
| 副委員長 | 加藤 玲子 | (日ユ協連副会長、目黒ユネスコ協会会長) | |
| 委員 | 野口 昇 | (日ユ協連理事長) | |
| | 朝倉 紘治 | (日ユ協連理事、杉並ユネスコ協会会長) | |
| | 石井 清 | (日ユ協連理事、柏ユネスコ協会会長) | |
| | 鈴木 幹夫 | (日ユ協連理事) | |
| | 田中 弘允 | (日ユ協連理事、鹿児島ユネスコ協会会長) | |
| | 二瓶 和敏 | (日ユ協連監事、二瓶総合法律事務所弁護士) | |
| | 的場 道子 | (伊丹ユネスコ協会名誉会長) | |
| | 内田 眞朗 | (日ユ協連事務局長) | |
| | オブザーバー | 尾花 珠樹 | (日ユ協連評議員) |
| | 開催日 | (1) 2009年4月16日 | |
| (2) 2009年4月20日 | | | |

5 各種委員会等（役職は就任当時。委員は五十音順）

① 組織活動検討会

| | | |
|------|--------------------------------|-----------------------|
| 委嘱事項 | 組織運営のあり方、会員資格の基準、及び会員の入退会などの審議 | |
| 委員長 | 加藤 玲子 | （日ユ協連副会長、目黒ユネスコ協会会長） |
| 委員 | 朝倉 紘治 | （日ユ協連理事、杉並ユネスコ協会会長） |
| | 石井 清 | （日ユ協連理事、柏ユネスコ協会会長） |
| | 田中 弘允 | （日ユ協連理事、鹿児島ユネスコ協会会長） |
| | 二瓶 和敏 | （日ユ協連監事、二瓶総合法律事務所弁護士） |
| | 的場 道子 | （日ユ協連評議員、伊丹ユネスコ協会会長） |
| 開催日 | (1) 2009年5月9日 | |
| | (2) 2009年5月30日 | |

② 組織活動委員会

| | | |
|------|--|-----------------------------|
| 委嘱事項 | 会員資格の基準、会員の入退会などの審議及び、民間ユネスコ運動の充実、発展を目指し、組織課題を解決し、組織強化を図る。 | |
| 委員長 | 加藤 玲子 | （日ユ協連副会長、目黒ユネスコ協会会長） |
| 副委員長 | 石井 清 | （日ユ協連副会長、柏ユネスコ協会会長） |
| 委員 | 林 美紀子 | （日ユ協連理事、杉並ユネスコ協会会長） |
| | 米田 伸次 | （日ユ協連理事、帝塚山学院大学国際理解研究所顧問） |
| | 二瓶 和敏 | （日ユ協連理事、二瓶総合法律事務所弁護士） |
| | 内田 眞朗 | （日ユ協連理事・事務局長） |
| | 松浦 慎 | （青年ユネスコ共同体暫定執行部会長、奈良ユネスコ協会） |
| 開催日 | (1) 2009年9月19日 | |
| | (2) 2009年10月26日 | |
| | (3) 2010年1月16日 | |
| | (4) 2010年3月5日 | |

③ 青年部会

| | | |
|------|---|---------------------------|
| 委嘱事項 | 全国的な青年連絡組織立ち上げの検討と、幅広い青年層の参加を促す青年運動振興案の検討 | |
| 部会長 | （近畿）松浦 慎 | 青年ユネスコ共同体暫定執行部会長、奈良ユネスコ協会 |
| | （北海道）今井智美 | 石狩ユネスコ協会、推進員 |
| | （東北）欠員 | |
| | （関東）手島敬 | 東京みどりの会 |
| | 清水麻生 | 渋谷ユネスコ協会 |
| | （中部東）鎌倉真音 | 鎌倉ユネスコ協会 |
| | （中部西）小崎好美 | 名古屋ユネスコ協会 |
| | （四国）欠員 | |
| | （中国）小竹祐加 | 岡山ユネスコ協会 |
| | （九州）佐藤隆士 | 大分県ユネスコ協会連盟 |

オブザーバー：

鈴木貫太郎 市川市ユネスコ協会
竹腰紀男 柏ユネスコ協会、推進員
井上美恵子 厚木ユネスコ協会

開催日 (1) 2009年11月8日
(2) 2010年2月7日

③ ユネスコスクール部会

委嘱事項 学校教育におけるユネスコ活動の振興案の検討
部会長 米田伸次 (日ユ協連盟理事、帝塚山学院大学国際理解研究所顧問)
メンバー 有里泰徳 (宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校教諭)
見上一幸 (宮城教育大学副学長)
水谷浩三 (暁学園暁小学校教頭)
米田謙三 (羽衣学園高等学校教諭)

開催日 2010年3月6日

④ 「世界遺産年報」監修委員会

委嘱事項 「世界遺産年報」出版に関わる専門的立場からの監修、助言
委員長 西村幸夫 (日ユ協連理事、東京大学教授)
委員 稲葉信子 (筑波大学大学院人間総合学科学研究科教授)
岡田保良 (国士舘大学教授・工学博士、イラク古代文化研究所・大学院グローバルアジア研究科/ICOMOS 国際記念物遺跡会議執行委員)
工藤父母道 (プロジェクト“ワールド・ヘリテッジ”総括)
矢野和之 (株式会社文化財保存計画協会代表取締役)
米田久美子 (財団法人自然環境研究センター研究主幹)
鈴木幹夫 (日ユ協連監事)

開催日 2009年7月21日

⑤ 地域草の根活動振興助成金審査会

委嘱事項 地域草の根活動振興助成金の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可否及び助成交付金額の決定
委員 石井 清 (日ユ協連理事、柏ユネスコ協会会長)
田中 弘允 (日ユ協連理事、鹿児島ユネスコ協会会長)
米田 伸次 (日ユ協連理事、帝塚山学院大学国際理解研究所顧問)

開催日 (1) 2009年2月17日
(2) 2009年7月23日

⑥ 世界寺子屋運動20周年委員会

- 委嘱事項 世界寺子屋運動20周年事業に係る企画・実施への助言
- 委員長 千葉泉弘（日ユ協連理事、国際基督教大学教育研究所顧問）
- 委員 北村友人（名古屋大学大学院国際開発研究科准教授）
- 委員 久保田穰（日ユ協連理事、横浜ユネスコ協会会長）
- 委員 黒田一雄（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）
- 委員 笹井宏益（国立教育政策研究所生涯学習制作研究部統括研究官）
- 委員 柴尾智子（(財)ユネスコ・アジア文化センター事業部教育協力課長）
- 委員 田川 清（日ユ協連理事、名古屋ユネスコ協会会長）
- 委員 豊島行宏（名古屋国際センター 専務理事・事務局長）
- 委員 永田佳之（聖心女子大学文学部教育学科准教授）
- 委員 牧野健太郎（NHKプロモーション 文化事業部長）
- 委員 盛 和春（日ユ協連理事、(株)電通プロジェクトプロデュース局シニアプロデューサー）
- 開催日 2009年11月17日

⑦ 未来遺産委員会

- 委嘱事項 「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力
- 委員長 西村 幸夫（日ユ協連理事、東京大学教授）
- 委員 秋田 実（三菱商事(株)環境・CSR推進室長）
- 秋道 智彌（総合地球環境学研究所副所長・教授）
- アレックス カー（(株)庵取締役会長東洋文化研究者）
- あん まくどなど
（国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長）
- 池坊 美佳（華道家）
- 隈 研吾（建築家、東京大学教授）
- 古谷 堯彦（大分合同新聞社常務取締役）
- 佐野 賢治（神奈川大学日本常民文化研究所所長）
- 七野 俊彦（トヨタ自動車(株)レクサス国内営業部部長）
- 高階 秀爾（財団法人西洋美術振興財団理事長）
- 知花 くらら（モデル・リポーター）
- 東儀 秀樹（雅楽師）
- 永野 浩介（日本電信電話(株)総務部門部長）
- 西山 厚（奈良国立博物館学芸部長）
- 西山 徳明（北海道大学教授）
- 萩本 欽一（タレント）
- 朴 恵淑（三重大学人文学部教授）
- 福原 義春（社団法人企業メセナ協議会会長）
- 前田 耕作（アフガニスタン文化研究所所長）

黛 まどか（俳人）

見並 陽一（東日本旅客鉄道(株)常務取締役）

宮廻 正明（東京藝術大学大学院教授）

宮田 繁幸（東京文化財研究所無形文化遺産部部長）

毛利 和雄（日本放送協会NHK解説委員室解説委員）

矢野 和之（日本イコモス国内委員会事務局長）

鷺谷 いづみ（東京大学大学院教授）

開催日

(1) 2009年11月20日

(2) 2010年3月22日